

○ 「いきなり！」路面店を強化、他業態とのコラボで加速へペッパーフード

ペッパーフードサービス（本社・東京都墨田区、一瀬邦夫社長）は25日、東京都中央区の東京証券取引所ビルで17年12月期の上期（第2四半期）決算説明会を開いた。この中で、一瀬社長は、けん引役となっている「いきなり！ステーキ」について、コンビニエンスストアなど他業態との共同出店により主要幹線道路のロードサイドへの出店を加速させる計画を打ち出した。また、15日に東証一部上場を果たしたのを受け、ナスダック（新興企業向け米国証券取引所）への上場を視野に入れている考えを明らかにした。米国についてはニューヨークでの1号店に続き、近々にもロスアンゼルスにも出店、今後12店舗ほどの出店計画を見込んでいる。本格的なレアステーキをリーズナブルな価格で食べられる「いきなり！ステーキ」は、出店するたびに期待通りの売り上げを達成している。一瀬社長は、

「いきなり！ステーキ」出店を起爆剤として、消費マインドをかき立てていきたい考えのようだ。米国産牛肉を安定確保するため、9月から社長自らが現地に行きパッカーらとの調達交渉に入る、という。

決算短信などによると、上期の売上高は154億1,300万円で前年同期比49.9%増、営業利益は12億200万円で167.5%増、経常利益は12億300万円で170.1%増、当期純利益は6億8,300万円で188.4%増の大幅な増収増益となっている。部門別の売上高をみると、ペッパーランチ事業は35億5,000万円で前年同期比30.5%増、「いきなり！ステーキ」事業は109億4,100万円で70.4%増といずれも2けた台の大幅な伸びを記録。特に「いきなり！ステーキ」事業は急成長を遂げており、売り上げ構成比率も大幅に拡大している。

○ TOKYO Xが香港でインバウンド対応イベントに参加、インバウンド需要に期待

既報、8月17日から19日にかけて香港で開かれた「国際食品総合見本市 Food Expo2017」では、ジェトロ主催の「香港フード・エキスポ2017 ジャパンパピリオン」が設けられた。会場では東京都のブランド豚「TOKYO X」が、日本畜産物輸出促進協議会・豚肉輸出部会のブースに日本産豚肉の銘柄のひとつとして展示され、ロースとバラを使ったソテー用、生姜焼き用、切り落としのトレーパック製品が展示された。

初日には、ジェトロのメインステージで植村光一郎理事（ミートコンパニオン常務取締役＝写真）が日本産豚肉の特長である美味しさ、安全、高品質な点を説明。日本で豚肉はテーブルミートとして利用されるため各地にこだわりを持った豚が存在し、サツマイモ、飼料米やお茶の葉が与えられ、美味しさにこだわった豚肉づくりが行われていること、厳選した飼料が配合されていること、全国銘柄食肉コンテストの消費者好感度審査など美味しさについて常に切磋琢磨がなされていることなどが紹介された。銘柄豚の試食タイムでは、



TOKYO Xのバラの焼肉を提供。会場からは香りの豊かさ、口の中でとろける脂の旨みと舌触りの良さ、柔らかく弾力のある食感に拍手がわいた。

TOKYO X-Associationの会長を務める植村氏は、「TOKYO Xは原則都内の販売に集中しているが、香港人による訪日旅行者は16年度で184万人に達し、日本の食とインバウンドの連携は日本に大きな発展をもたらす」とコメント。

そのうえで、「TOKYO Xは、百貨店や量販店中心に販売をしてきたが、これからはパーツ販売に力を入れ、今まで対象にしてこなかったレストランなどの外食にも目を向け、これから増加傾向を示すインバウンドを取り込むことでTOKYO Xの支持率を高めてゆきたい」と抱負を語っている。